

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730703

研究課題名(和文) バングラデシュ農村部で拡充された学校教育制度と職業の接続に関する研究

研究課題名(英文) A study on the connection of the school education system and occupation that has been expanded in rural Bangladesh

研究代表者

日下部 達哉 (Kusakabe, Tatsuya)

広島大学・教育開発国際協力研究センター・准教授

研究者番号：70534072

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、バングラデシュ農村部で拡充された学校教育制度と職業の接続の関係性を追求するため、4村落における10年間の追跡調査を実施した。その結果、以下3点を明らかにした。

10年前に学校に通っていた子どもたちの追跡調査において、中等教育修了にふさわしい職業につけた例はごく一部のみであった。にもかかわらず、親の学歴主義の傾向はより一層強まっており、教育に投資する親が増加していた。

政府は、教育と職業の接続について、特別な対策をとっていないため、今後政策的措置がとられなければ、学歴保有者が適切な職業を得られない可能性が出てくる。

研究成果の概要(英文)：This study conducted fieldwork in four rural areas of Bangladesh for to argue that the relationship between school education system and job placement within the research period. As a result of that following three findings became obvious.

1.10 years of longitudinal research of the children who were going schools within the villages shows us a little cases exist the children could get jobs which are worthy of secondary school certificate.

2.Despite of that, the parents' diplomaism have been stronger than before and many of them invested for children's education.3. There is a possibility the diploma holders or degree holders of Bangladesh cannot access to adequate jobs if the government doesn't make policy action.

研究分野：比較教育学

キーワード：バングラデシュ 農村 教育-職業接続

1. 研究開始当初の背景

研究代表者である日下部を含む関連研究者らによって、これまで南アジアの教育制度受容について研究を行ってきた結果、浮き彫りになってきたのは、住民が子どもを託すような機関は、政府が建設した学校のみならずNGOが建設した学校、モスクに併設されたマドラサ(イスラーム神学校)もあるという、複線的教育コースの存在であった。これにより、人々の中で学校教育が普遍化、その存在は日々大きくなっている傾向を見出した。

そこで今後の教育発展を見据えるうえでも、これまでの研究を基礎とし、各国の教育制度拡充政策の目標の一つである人的資本育成が、既に成功しているのか、あるいは成功の方向に向かうような兆しが発見できるのか、または失敗なのか、判断するため、研究の必要性を認めた。つまり経済・雇用機会は、人々にどのように見え、どのような職業に接続しようとしているのか、調査する必要性を認識したといえる。

2. 研究の目的

上記の背景より導かれた「バングラデシュ農村部で拡充された学校教育制度と職業の接続の関係性」を、約10年前と全く同じ標本世帯、教育機関、教育行政機関などを追跡調査することによって、10年前のバングラデシュ農村で、受容されはじめた学校教育制度が、次の進路形成のために機能しているのか、特に中等教育または高等教育を卒業したあと、教育をうけたにふさわしい就業機会が得られているのか、農村住民がそのことについて有している学校教育に対する意見、願望、期待なども合わせて調査することとした。解明のポイントは以下の3点にまとめることができる。

- (1)10年前に学校に通っていた子ども世代が、現在どのような学歴あるいは職業を有しているか、またそれは、農村部の人々が納得できるようなものか。
- (2)親の子どもに対する、将来におけるビジョンの在り方の、ここ10年間の変化。
- (3)教育の供給側である学校や教育行政担当者のインタビューによる、10年間の政策的変遷とその政策意図を明らかにすると同時に、初等・中等教育レベルのあり方の多様性に着目し、中等職業教育、女子教育の拡充が、工場労働者、またホワイトカラー人材の輩出を増幅させているのかの検証。

3. 研究の方法

研究目的を達するため、初年度から最終年度にかけて、バングラデシュのチッタゴン県ラオジャン郡ゴヒラ村、ラジシャヒ県

プティア郡カタルバリア村、ブラフモンバリア県コジバ郡ソイダバッド村、メヘルプール県ガンニ郡カラムディ村といったそれぞれ特色を持ったバングラデシュの農村においてフィールドワークを行っていった。その際、主として家族構成や教育歴、家庭経済、学校教育に関する意識調査など、10年前のものと同様の30の質問からなる調査票を用い、約10年後にあたる今日のデータを比較することによる経年変化の比較と、4農村の地域間比較の手法を用いて、教育発展の在り方、及び現地の人々の教育-職業接続の見方などを明らかにしていくことを方法の中心とした。

4. 研究成果

研究成果は、以下の3点および総括的結果にまとめられる。

(1)10年前に学校に通っていた子どもたちの追跡調査において、中等教育修了にふさわしい職業につけた例はごく一部のみであった。

(2)にもかかわらず、親の学歴主義の傾向はより一層強まっており、教育に投資する親が増加していた。

(3)政府は、教育と職業の接続について、特別な対策をとっていないため、今後政策的措置がとられなければ、学歴保有者が適切な職業を得られないケースが増加するであろう。

総括的な結論としては、村人達は、近年、子どもたちを学校やマドラサ(イスラーム神学校)に行かせるようになり、親世代に一定数いた未就学者が、現在の子どもの世代では、ほとんどいなくなっていた。そのほとんどは、少なくとも小学校には就学し、また多くの場合、中等学校に進んでいた。彼ら、つまり中等教育あるいは高等教育に進学できた子ども世代は、何らかの仕事に就こうとするものの、ダッカなどの大都市でない限り、職業市場は依然として厳しく、農村部雑業層に就かざるを得ない状況があった。しかし、一方で、国内外への出稼ぎの数が急激に増加しており、ダッカをはじめ、ドバイ、オマーン、サウジアラビア等に数年単位で出稼ぎに行き、現金収入を求める動きが活発化していた。つまり、村人の学歴は上がり、現金収入はたしかに増えてはいた。しかし、それは見せかけともいえ、詳細な本研究の調査結果からいえば、学歴と職歴の「接続」や「連続性」は認められなかったといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

日下部達哉、「バングラデシュにおけるデモクラシー実現と教育の関係性 拡充された教育制度と職業の接続に焦点を当てて」、『現代インド研究』第5号、2015年、109 - 126頁所収。(研究ノート)(査読あり)

日下部達哉、「インド タミルナードゥ州におけるインクルーシブ教育の事例研究」、『国際教育協力論集』第17号第1号、2014年、31 - 44頁所収。(査読なし)

日下部達哉、「バングラデシュ人の考える教育学 私にとってのコア・ジャーナル」、『アジア研ワールドトレンド』、2012年、pp.28-31。(査読なし)

KUSAKABE Tatsuya, Impact of Education Expansion on Employment in Bangladesh: Comparing Two Cases of Villages in Remote and Suburban Rural Settings, *Journal of International Cooperation in Education* 15-2, Hiroshima University, 2012, pp.53-68. (査読あり)

KUSAKABE Tatsuya, Diversification of Madrasa Education in Rural Bangladesh: Comparative Study of Four Villages, Kazuyo Minamide, Fumiko Oshikawa, *Right to Education in South Asia: Its implementation and New Approaches*, Kyoto University CIAS Discussion Paper No.24, 2012, pp.37-48. (査読なし)

[学会発表](計12件)

Tatsuya Kusakabe, “Creating Muslimness and its dissemination process in South Asia”, Poster presentation on Annual Conference Comparative and International Education Society 2015, 10th Mar 2015, DC, USA.

日下部達哉、「バングラデシュ竜巻災害からの教育復興」、第16回国際ボランティア学会、2015年2月28日、京都女子大学。

Tatsuya Kusakabe, “Future Vision of Using Resource Center/Resource room style in Inclusive Education-A Case Study of Tamil Nadu State, India”, Oral presentation on Liverpool Hope University Inclusive Education Workshop, 14th Nov 2014, Liverpool, UK. (Invited speaker)

Tatsuya Kusakabe, “Institutionalization of Unrecognized Madrasa Education in Bangladesh”, UNESCO Chair Public Lecture of George Washington University”, 16th Oct 2014,

DC, USA. (Invited speaker)

日下部達哉、「バングラデシュ農村の社会移動と教育制度拡充 - 教育開発の果実を貧困層は受け取ったのか?」、2014年度現代インド・南アジアセミナー、2014年9月16日、広島大学。(招待講演)

日下部達哉、「バングラデシュ農村部における教育開発と社会移動 僻地農村と近郊農村における世帯階層分析から」、第50回日本比較教育学会、2014年7月13日、名古屋大学。

Tatsuya Kusakabe, "Teacher Professional Development on School Improvement Practices at Lower Secondary level in Hanoi, Vietnam", Paper Presentation on Group C meeting of Africa - Asia University Dialogue for Educational Development, 15th April 2014, Penang, Malaysia.

Tatsuya Kusakabe, "Institutionalization of Madrasa Education in Bangladesh", Oral presentation on 3rd International Conference of Bengal Studies, 19th Nov 2013, Kolkata, India.

Tatsuya Kusakabe, "Impact of Education Expansion on Employment in Bangladesh: Comparing two Cases of Villages in Remote and Suburban Rural Settings", Oral presentation on 15th World Congress of Comparative Education Societies, 25th June 2013, Buenos Aires, Argentina.

日下部達哉、「バングラデシュの非正規宗教校コウミマドラサによる教育開発事例研究」、第49回日本比較教育学会、2013年7月6日、上智大学。

Tatsuya Kusakabe, “Educational Development in Rural Bangladesh: Comparison between Western and Eastern Regions”, Oral presentation on 8th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia, 4th July 2012, Bangkok, Thailand.

日下部達哉、「バングラデシュ教育発展の軌跡 僻地農村と近郊農村の10年間」、第48回日本比較教育学会、2012年6月16日、九州大学。

[図書](計5件)

日下部達哉、「バングラデシュ農村における教育の自立発展性 - 僻地農村と近郊農村の比較から」、押川文子・南出和余編著『「学校化」へ向かう南アジア 教育と社会変容』、昭和堂、2015年、頁数未定。(掲載決定)

日下部達哉、「 Bangladeshにおけるマ
ドラス教育の複線性と多様性」、押川文子・
南出和余編著『「学校化」へ向かう南アジア
教育と社会変容』、昭和堂、2015年、頁数
未定。（掲載決定）

日下部達哉、「エジプトにおけるトランスナ
ショナル高等教育 - カイロ・アレキサンドリ
アにおける三大学の事例から」、杉本均編著
『トランスナショナル高等教育の国際比較 -
留学概念の転換』、東信堂、2014年、305-318
頁所収。

日下部達哉、「 Bangladeshの学校」、
二宮皓編『世界の学校』学事出版、2013年、
172-180頁所収。

日下部達哉、「比較教育学とその周辺領域
における南アジア教育研究」、山田肖子・森
下稔編著『比較教育学の地平を拓く - 多様な
学問観と知の共働』東信堂、2013年、344-361
頁所収。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日下部 達哉 (Kusakabe, Tatsuya)
広島大学・教育開発国際協力研究センター
研究者番号：70534072